

化学的に合成された肥料や農薬を使用しない
遺伝子組換え技術を利用しない
有機農産物の表示には「認証」の
有機JASマークを表示できるのは
認証を受けたもの
有機JAS認証を取得するに
手間がかかる

06 有機給食から、農業・観光・環境がつながる飯山へ

子どもの健康を守る給食から、地域の未来を育てる仕組みへ。

有機給食を、子どもたちの健康と食育の充実だけでなく、地域農業の振興、遊休農地の活用、農業と観光の連携、環境保全につなげます。

地元の農産物を給食に生かし、農家の所得向上と持続可能な農業を目指すとともに、飯山の豊かな自然や農産物を地域の魅力として発信します。さらに、環境に配慮した農業や地産地消を進め、脱炭素社会の実現にもつなげます。

給食を入り口に、子どもも農家も地域も元気になる飯山を目指します。

具体的には、4つの柱

1. 子どもの健康と食育

地元の農産物や有機農産物を給食に取り入れ、子どもたちが食の大切さや農業、自然環境について学べる機会を増やします。

2. 農業振興と遊休農地の活用

給食で使う農産物の地元調達を進め、農家の安定した販路と所得向上につなげます。遊休農地の活用や、新たに農業に取り組む人を応援します。

3. 農業と観光の連携

飯山の米や野菜、有機農産物を地域の魅力として発信し、農業体験や食の体験などを通じて、交流人口の拡大と地域経済の活性化を目指します。

4. 環境保全と脱炭素社会

環境に配慮した農業や地産地消を進め、地域の自然環境を守ります。食材の輸送や食品ロスなどにも目を向け、環境負荷の少ない地域づくりを進めます。

07 駅前を核に、泊まる・住む・歩く、緩やかなまちづくり

飯山駅は、新幹線駅でありながら市街地の中にあることが大きな特徴です。

この強みを生かし、駅前に宿泊施設を整備するとともに、駅周辺から中心市街地へ人の流れをつくり、飯山のまち全体が活気づく仕組みをつくりまします。

1 駅前に、飯山らしい宿泊施設を

駅前には、観光客やビジネス客が安心して泊まれるホテルが必要です。

ホテルの規模や高さについては、飯山の自然や景観を生かすことを基本にしながら、事業者の採算性との両立を図り、地域にふさわしい形を相談していきます。

また、一つの大きなホテルだけに頼るのではなく、既存のホテル・旅館・民宿や、新たに生まれる宿泊施設とも連携し、それぞれの特徴を生かして、訪れる人が「ここに泊まりたい」と選べる飯山を目指します。

飯山
2 駅前だけでなく、~~まちなか~~全体を宿泊・交流の場に

飯山には、自然、雪、文化、歴史、食など、地域ごとに異なる魅力があります。

「駅前に泊まる人」だけでなく、「まちなかに泊まる人」「地域に泊まる人」が増え、それぞれの場所で飯山を楽しめるまちを目指します。

3 駅の近くに「住む」という選択肢を増やす

駅周辺には、買い物、医療、交通、飲食など、暮らしに必要な機能があります。

こうした環境を生かし、高齢者や若者、子育て世代などが駅の近くで暮らせる住宅や住環境を整えていきます。

「駅の近くに住みたい」という人の選択肢を増やし、住む人がまちなかを歩き、買い物をし、地域とつながることで、中心市街地の活性化にもつなげます。

ただし、住む場所は一人ひとりの希望があります。すべての人を中心市街地に集めるのではなく、それぞれの地域で暮らしたいという思いを尊重しながら、「選べる住まい方」を大切にします。

4 人口減少時代の「緩やかなまちづくり」へ

人口減少が進む中、道路や上下水道などのインフラ、公共施設や行政サービスを、これまでと同じようにすべての地域で維持していくことは、将来的に大きな課題となることでしょう。

一人ひとりの暮らし方を尊重しながら、駅周辺や中心市街地にも安心して暮らせる選択肢を増やしていく、「緩やかなまちなかづくり」を進めたいと考えます。

高齢者・若者・子育て世代などが、駅や買い物、医療に近い場所で暮らせる住環境を整える人口減少時代の「緩やかなまちなかづくり」 住む場所の選択を尊重しながら、必要などころに必要な投資を行い、持続可能なまちをつくります。

飯山に住み続けたい人が、年齢や家族構成の変化に応じて、住み続けられる選択肢を増やす」という考え方だからです。

事例
多い、少し自信ない 体調 雪のこと

08 災害時にも誰もが安心できる飯山市へ

災害は、いつ、どこで起こるかわかりません。

「起きてから考える」のではなく、平時から備え、地域で支え合える仕組みをつくりま

す。

分散備蓄で、身近な場所に必要な物資を
道路の寸断などで、避難所や防災拠点まで物資を取りに行けないことを想定し、地域の状
況に応じて備蓄品を分散配置します。必要な物資を、できるだけ身近な場所で確保できる
体制を整えます。

妊産婦・乳幼児に、安心して過ごせる避難先を
妊婦さんや赤ちゃんを抱えた家庭が、一般の避難所で過ごすことが難しい場合に備え、ホ
テル・旅館・民宿などとあらかじめ協定を結び、安心して過ごせる場所を確保します。

介護施設を止めない、広域連携の仕組みを
大規模災害では、介護施設の職員自身が被災し、出勤できなくなることも想定されます。
近隣自治体や介護事業者との広域的な応援体制を平時から整え、職員の応援や人員確保な
どにより、災害時にも介護サービスを継続できる仕組みをつくりま

す。

「避難できる」だけでなく、「安心して避難できる」「支える人も支えられる」飯山市へ